

地域の健康推進拠点をめざす 調剤だけが目的でない薬局へ

ホロン

届け出が始まって10月で1年になる「健康サポート薬局」。保険調剤薬局すずらん薬局グループのホロン（中区袋町、古屋憲次社長）は、9月現在で県内25カ所のうち10カ所を同社グループが占める。地域の健康推進拠点として、処方箋に基づいた調剤主力の薬局から、疾病予防や総合的な服薬・健康指導などによる来店頻度の高い薬局を目指す。

健康サポート薬局は、保健所に届け出、県の認定を受け店頭表示する。服薬情報の一元管理、24時間および在宅対応、医療機関などと連携する、かかりつけ薬剤師・薬局が前提。検査機器や相談窓口が整い、処方箋による医薬品だけでなく一般用医薬品や介護用品も扱う。厚生労働省は「患者のための薬局ビジョン」に掲げ、門前薬局からかかりつけ薬局へのシフトを急ぎ、2025年までに全国5万8000薬局のうち1万～1万5000を健康サポート薬局にしたい考え。

健康サポート薬局制度に先駆け、同社は20数年前から健康教室を開

き、「地域の健康と福祉の情報ステーション」を目指してきた。一部薬局にコミュニケーションを開設し、体組成測定会や料理教室、転倒予防教室などを通じてセルフメディケーションを支援。15年には安芸高田市から、糖尿病予防事業を受託した。社内には糖尿病療養指導士が3人、管理栄養士や栄養士が12人在籍する。現在グループ15薬局で18年3月までに3薬局（中区）の健康サポート薬局認定を予定。処方箋枚数や医薬分業が頭打ちになる中、薬剤師が一般用医薬品や健康食品も含む服薬・健康指導を進め、健康維持・増進と医療費削減につながる薬局運営に力を入れていく。